

ENV250 地域環境論

3年 1,2クォーター

担当教員 青木 賢人

授業形態 講義

アクティブ・ラーニング 一部導入

単位数 2

曜日・時限 金曜日・4時限

授業概要

地域レベルの環境問題とともに地域の魅力を知りさらに高めるために必要な基礎知識を身につける。「ものの見方」を養い、課題発見力および課題解決力を理論と実践によって習得する。

生態系の中の人間の位置付けを認識したうえで、人間が地域環境に及ぼす影響を論じる。また、地域の中にある環境問題は何かを知り、人間と自然環境との共生について考察する。

到達目標

自然環境と人間社会の基層的な関係を理解すると共に、現代社会における自然環境に対する社会の責務を考えられるようになる。

先修科目

特になし

教科書・参考資料等

特定の教科書を用いず、講義中のプレゼンをインターネット上で配布する。なお、授業に際して、以下のテキストを参照する。積極的に読んでおいてもらいたい。

- 千葉徳爾（1973）『はげ山の文化』
- 佐々木高明（1982）『照葉樹林文化の道』
- 市川健夫ほか（1984）『日本のブナ帯文化』

授業の方法

この授業は講義形式で行う。担当教員は講義を行い、定期的にミニレポートを実施する。また、講義期間中に勝山市においてフィールドワークを実施し、それに基づくレポートの提出を求める。学期末には理解度を確認するための期末試験を行う。

成績評価

成績評価のポイントは3点。一つは、普段の授業に対する積極性およびその理解度をミニレポートにより評価する。次に、授業のキーワードの一つとなる「ジオパーク」を通じて地域レベルの人間と環境の共生に関してレポートで論じてもらうことで、講義全体のテーマに関する思考・理解を評価する。

最後に期末試験によって、基本的な知識の定着や思考について評価する。

成績

- 30% ミニレポートの提出およびその内容
- 30% レポート課題の提出およびその内容
- 40% 期末試験

授業スケジュール

- 第01回 インTRODクシヨン
- 第02回 文化から環境をみる
- 第03回 日本の気候と植生分布

- 第04回 北陸の気候環境
- 第05回 日本の中の北陸地方～西日本と東日本
- 第06回 縄文人と弥生人
- 第07回 照葉樹林文化論
- 第08回 ブナ帯文化論
- 第09回 はげ山の文化
- 第10回 北陸の地形特性と暮らし・災害
- 第11回 ジオパークによる環境保全と地域活性化
- 第12回 ふくい勝山恐竜溪谷ジオパーク
- 第13回 人新世 (Anthropocene) における人間社会と環境
- 第14回 期末試験

のこり2回分の授業については、休日（スケジュールは授業参加者と相談して決定）に実施する「ふくい勝山恐竜溪谷ジオパーク」におけるフィールドワーク（ジオツアー）に振り替える。講義日程の振替なので、フィールドワークは全員出席が原則。

事前・事後学習

○事前学習：事前にインターネットで配布している資料に目を通し、授業内容に関して予習をしておくこと。また、事前に提示した資料、および文献に可能な限り当たり、内容についての理解を深めておくこと。（作業に要する時間は1時間程度）。

○事後学習：授業で課されたミニレポートを作成し、次の時間に提出すること。この作業には授業の復習の意義もある（作業に要する時間は通常の週では1時間程度）。また、フィールドワーク後にはレポート課題を行うこと（5～7時間程度の作業時間を要する）。